

北九州市立千代小学校
 校長 諸藤 貴子
 平成28年11月30日(水)

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

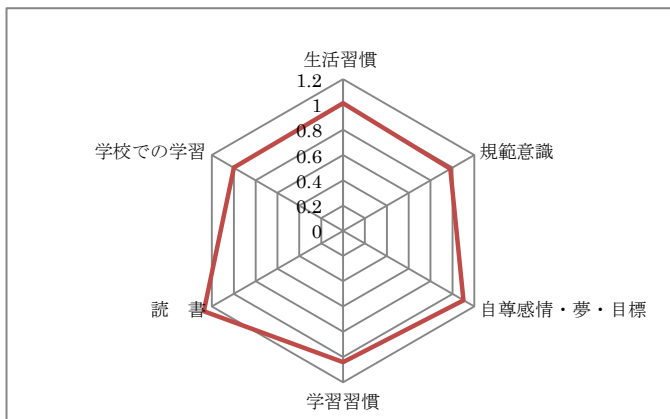
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	漢字を正しく読んだり、書いたりできる子どもの割合が高い。ローマ字に関しては、正しく読んだり、書いたりする習慣が必要である。	上回っている
国語B	グラフ等から読み取ったことを的確に書くことがやや苦手である。じっくり落ち着いて文章を読み取る力がやや不足している。	上回っている
算数A	朝自習の有効活用や個別支援をしながら基礎基本の内容の定着を図ってきた成果が表れている。計算力が高い。	上回っている
算数B	難しい文章問題でもあきらめずに解こうとする意欲がある。根拠を自分の言葉で記述したり説明したりすることが、やや苦手である。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・読書については、読書ボランティアの方々との読み聞かせや、図書室の環境整備などからもよい影響を受けていると考えられる。 ・自学についての取組は、各学級で行っているが、計画的に見通しをもって弱点を克服する取組となっている児童の数は、少ない。 ・挨拶を進んでしたり、学校のルールを守ったりする等、当たり前なことを当たり前に行うことができる子どもが多い。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・考えをまとめ、相手に分かりやすく伝える活動を子どもの発達段階に応じて、学習活動の中に位置付ける。
- ・全国学力学習状況調査(6年)や北九州市学力学習状況調査(5年)、観点別学習状況調査(1~4年)へ向けての過去問題を継続的に取り入れたり、アシストシートを活用したりする。
- ・学び方を学ぶことや、基礎的・基本的な内容のさらなる定着に向け『読む・考える・書く・発表(表現)する』学習活動を丁寧に進めていく。

アシストシート・・・国語、算数補助プリント

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用方法について保護者会等、機会を捉えて説明しながら家庭と学校が協力して取り組む。
- ・自学ノートや宿題について担任等が丁寧に点検し価値付けながら、進んで取り組む意欲をさらに高めていくようにする。
- ・自学ノートを校内掲示して、価値を認めるとともに、工夫していることを共有したり模倣したりできるようにする。